

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第 1 面)

産業廃棄物処理計画書	
2025 年 4 月 20 日	
宮崎県知事	殿
提出者	
住 所	青森県上北郡横浜町字林尻102-100
氏 名	日本ホワイトファーム株式会社 代表取締役 田中 雄一郎
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号	0175-78-3934
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	日本ホワイトファーム株式会社 宮崎食品工場
事業場の所在地	宮崎県日向市美々津町2277番地
計画期間	2025年4月1日～2026年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	食料品製造業 (09)
②事業の規模	資本金 15.6億 年商167億
③従業員数	450人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙5のとおり

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙6のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 2024 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙1のとおり	
	排出量	36,377 t	t
	(これまでに実施した取組) 工場内で発生する有機性残渣を回収し排水処理の負荷を軽減させることを継続して行う。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別添2のとおり	
	排出量	32,740 t	t
	(今後実施する予定の取組) 工場で使用する水の無駄や漏水をなくすようにする。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃棄物置場の整理整頓、分別確認。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 分別を徹底させ減量化をめざす

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 2024 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 2024 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	30,219.03 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	27,197 t	t
	(今後実施する予定の取組)		

排出量-汚
①

別紙④ ④

工場使用水の減量を図り有機性汚泥の低減化を目指す

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 2024 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 2024 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別添2のとおり	
	全処理委託量	6,158.3 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	6,158.3 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	①脱水効率の向上化（脱水機増設H24年3月） ②節水対策（H27年） ③膜処理設置（H29年） ④再生水利用設備設置（2022年）		

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙④のとおり	その他
	全処理委託量	5,542 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	5,542 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	①工程内リサイクルの取組		
	②発生抑制考慮した製造方法の検討		
	③生産ラインなどで使用する使用水の無駄を少なくする。		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の種類別発生・処理状況(2024年度実績)

別紙1欄

廃棄物の種類	発生源 〔フローシート〕 〔No.〕	性状	発生量 (基準量) t/年 〔構成比〕	処理方法(現状の工程) 一凡例一 (中):中間処理 (最):最終処分 ○:自己処理 ●:委託処理
①汚泥 有機性汚泥	排水処理工程	泥状	33,577 92.301%	有機性汚泥を脱水(中)○ 33,577t/年※1 脱水汚泥を肥料化(最)● 3,358t/年※2
②混合物	製造処理機械等	固形物	3.63 0.010%	安定型埋立 (中)● 3.6 t/年
③廃プラ類	製造工程 〔No.1〕	固形状 (袋) (シート)	152.780 0.42%	ポリ袋等を破砕・燃料化(中)● 152.8 t/年
④ガラスくず、コン クリートくず及 び陶磁器くず	製造工程 〔No.1～No.2〕	固形状	1.90 0.0052%	再生(0.04t)(中間)● 1.90 t/年
⑤金属くず	製造工程 〔No.1〕	固形状	3.2770 0.009%	安定型埋立 (中)● 3.3 t/年
⑥廃アルカリ (血液)	製造工程 〔No.1〕	液状	2,346.965 6.452%	発酵堆肥化(中)● 2,347.0 t/年
⑦廃油	製造工程 〔No.3〕	固形状	3.24 0.009%	廃油を再生(中)● 3.2 t/年
⑧廃油(特管)	製造工程 〔No.1〕	液状	0.00 0.000%	廃油を再生(2.2)(中)● 0.00 t/年
⑨汚泥・砂利く ず(旭ケミカル)	製造工程 〔No.3〕	固形状	34.00 0.093%	埋立(2.3)(中)● 34.0 t/年
⑩蛍光灯	製造工程 〔No.6〕	固形状	0.00 0.000%	破砕(中)● 0.0 t/年
⑪電池	製造工程 〔No.7〕	固形状	0.00 0.000%	破砕(中)● 0.0 t/年
⑫木くず	製造工程 〔No.1〕	液状	0.49 0.001%	破砕(中)● 0.5 t/年
⑬発泡	製造工程 〔No.1〕	液状	0.1 0.000%	破砕(中)● 0.1 t/年
⑭動物系固形 不要物	製造工程 〔No.2〕	液状	254.280 0.699%	発酵堆肥化(中)● 254.3 t/年
合 計			36,377.3 100.0%	—————

(注) ※1 脱水前の量を示す

(注) ※2 脱水後の量を示す

(処理計画書)

前年度の産業廃棄物発生量(実績)

別紙ー3

	①汚泥	②混合物	③廃プラ類	④ガラスくず、 コンクリートくず 及び陶磁器く ず (t)	⑤金属くず(t)	⑥廃アルカ リ(血液)(t)	⑦廃油(ℓ)	⑧廃油(特 管) (ℓ)	⑨汚泥・砂 利くず(t)	⑩蛍光灯	⑪電池	⑫木くず	⑬発泡	⑭動物系固 形不要物
① 産業廃棄物発生量	31,822	4.6	160.1	0.6	0.2	2,011	5.5	0.00	9.53	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
② 自己直接再生利用量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③ 自己直接埋立処分 又は海洋投入量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④ 自己中間処理量	28,640	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤ 自己中間処理残さ量	3,182	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥ 自己中間処理後再 生利用量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦ 自己中間処理後自 己埋立処分又は海 洋投入量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧ 直接委託及び自己 処理後委託処分量	3,182	4.6	160.1	0.6	0.2	2,011	5.5	0.00	9.53	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(処理計画書)

産業廃棄物発生量(目標)

別紙ー4

	①汚泥	②混合物	③廃プラ類	④ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁	⑤金属くず	⑥廃アルカリ(血液)	⑦廃油	⑧廃油(特管)	⑨汚泥・砂利くず(旭ケミカル)	⑩蛍光灯	⑪電池	⑫木くず	⑬発泡	⑭動物系固形不要物
① 産業廃棄物発生量	30,219	3.3	137.5	1.7	2.9	2,112	2.9	0.00	30.60	0.00	0.00	0.44	0.05	228.85
② 自己直接再生利用量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③ 自己直接埋立処分又は海洋投入量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④ 自己中間処理量	27,197	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤ 自己中間処理残さ量	3,022	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥ 自己中間処理後再生利用量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦ 自己中間処理後自己埋立処分又は海洋投入量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧ 直接委託及び自己処理後委託処分量	3,022	3.3	137.5	1.7	2.9	2,112	2.9	0.00	30.60	0.00	0.00	0.44	0.05	228.85

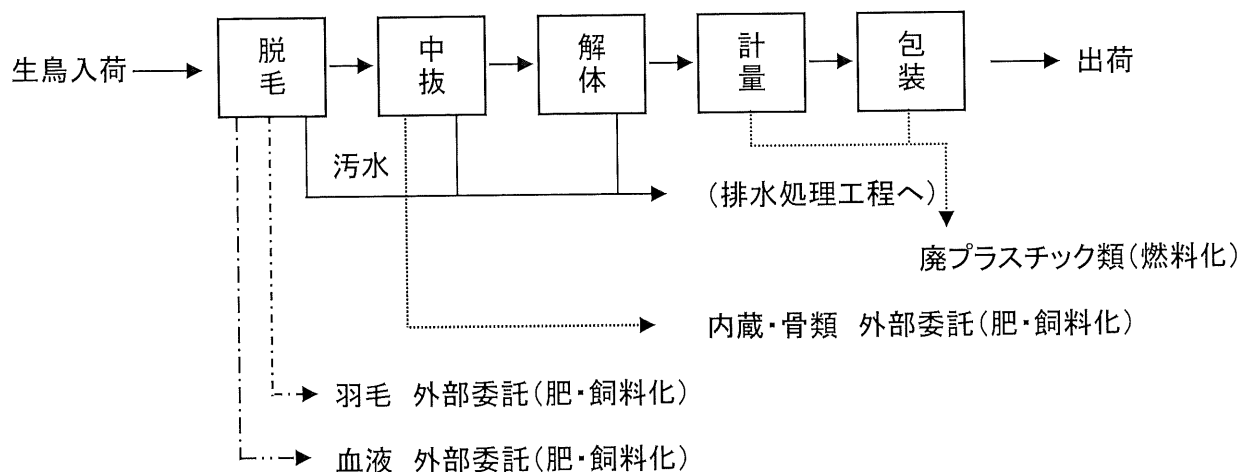


図1 ブロイラー処理フローシート

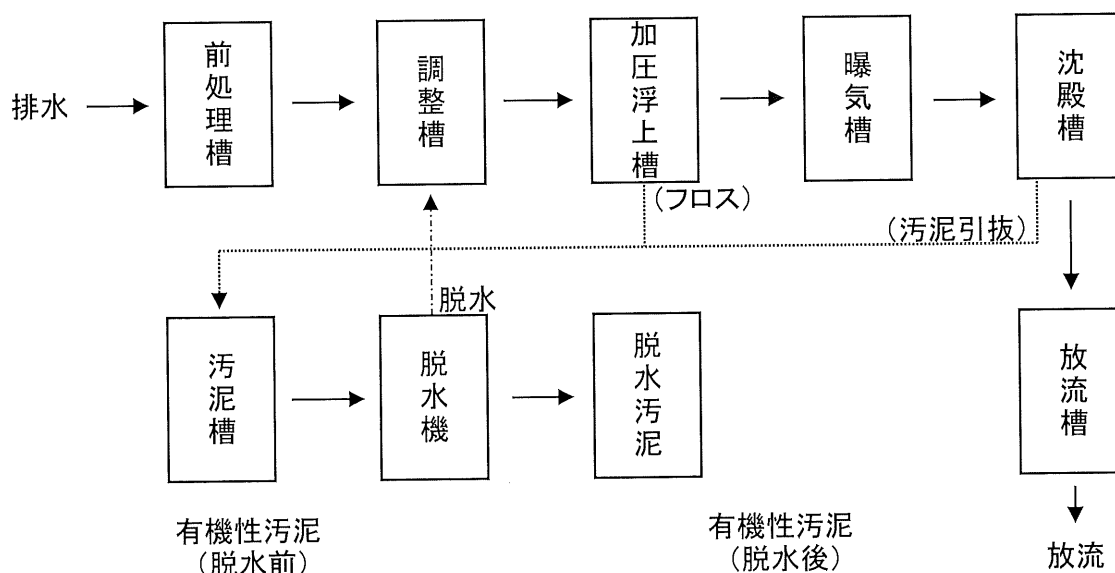


図2 排水処理フローシート

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(1) 責任者及び管理組織図

統括責任者		所 属：宮崎食品工場	工場長職・氏名：小西 昌夫
廃棄物担当		組織名：設備管理課	課長職・氏名：平山 明
		組織人数：7人	
役 割	工場環境管理委員会	○ 廃棄物処理に関する検討 廃棄物の発生抑制、再生利用、中間処理、適正処理の推進、計画的な廃棄物の管理運営を行う上で必要な事項を検討する。 ・委員長－工場長 ・委員－関連部署部課長 ・事務局－設備管理課	
	廃棄物処理統括責任者	○ 廃棄物処理方針の策定 ○ 工場の廃棄物管理規程の策定・改廃 ○ 廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認	
	廃棄物管理担当課長	○ 廃棄物処理計画の作成 ○ 廃棄物管理状況の把握と改善策の検討 ○ 産業廃棄物処理施設の運転・維持管理状況の把握 ○ 処理業者、再生利用業者の調査、選定及び管理 ○ 委託契約の締結 ○ 産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物管理表の交付・管理 ○ 監督官庁への各種報告 ○ 社員、関連会社に対する教育・啓発 ○ その他関係する事項	

廃 棄 物 管 理 組 織

日本ホワイトファーム(株)
宮崎食品工場

工場長（廃棄物処理統括責任者）

工場環境管理委員会

製造部
産業廃棄物処理責任者
（製造各担当課長）

設備管理課
廃棄物管理担当責任者
（設備管理課長）

食材課
産業廃棄物処理責任者
（食材課長）

総務部
産業廃棄物処理責任者
（総務部長）

一各生産ラインー
廃棄物担当者